

- ・ 子育て情報の一元化、双方向化による利便性の向上と互助の活性化を促す。
- ・ 子どもからお年寄りまで地域の中に居場所があり、そこに交流が生まれる街。



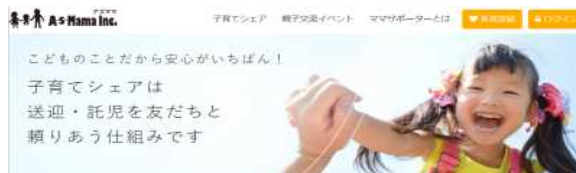
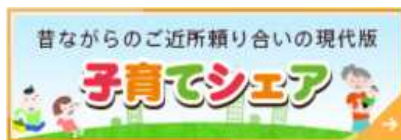
現状・課題

- ・ 核家族化や共働きの増加により、子育て支援のニーズが多様化
- ・ ふじみ野ママフレ（育児を応援する行政サービスガイド）
 - 行政情報しかなく、一方通行。
- ・ ファミリーサポートセンター（ふじみ野市の運営する子ども一時預かり有償ボランティアの斡旋事業）
 - 子育て支援課に出向いて利用登録しなければならない為、忙しい親にはハードルが高い。
 - 利用者とボランティアの間に市が介在するためレスポンスに時間が掛かる。
- ・ 地域コミュニティでの助け合いが減っている一方、スマートフォン等ITでの情報共有・交換が増えている。

事例調査

- ・ As Mama（アズママ：子育てシェアサイト）

SNSによる親同士の一時的預かり、送迎代行の有償による互助。民間の事業者が運営している。イベント等の企画もある。秋田県湯沢市との提携。1時間500円。



- ・ 浦安子育て情報サイト『MY浦安』



官民融合の子育てポータルサイト。行政の情報だけでなく民間（幼稚園等）主催のイベント等の案内、掲示板機能あり。

- ・ 学生から高齢者まで、世代を問わず、サポーターとして登録する。
- ・ 子育ての手助けを気軽にお願いしたり、お願いされたりする。
- ・ 子育てに関する情報をもらうだけでなく、情報を提供する。
- ・ ホームページの運営に親目線で参加し、行政の情報と市民の情報を一緒に提供する。



一方通行から双方向化へ
行政と市民の情報の融合化

3

ママフレサイトを市民参加型に改造
(NPOや市公認の市民団体のサイトとして運営)



- ・ ファミリーサポートの申込みを市の職員を通さず、オンラインでも利用登録、利用申込ができる体制を整える事により、気軽に・便利にサポートを受けたり、提供できる。
- ・ 行政だけでなく民間の情報も提供する。
掲示板機能により個人からの情報提供をしやすくする。
- ・ 市民のHP運営参加
(HPの更新作業・イベントの取材、記事の作成)

4